

One&Only

アフリカンアート・コレクション ワン&オンリー・ケープタウン

2009年3月



2009年4月3日に迫るワン&オンリー・ケープタウンのオープニングは、正に南アフリカにおけるアートとおもてなしの共存を実現させる機会と言えることでしょう。アートの収集家でもあるソル・カーズナー、世界的に著名なインテリアデザイナーのアダム D.ティハニー、グッドマン・ギャラリーのリザ・エッサーズ、そして南アフリカの美術歴史家の第一人者であるマイケル・スティーブンソンが、クリエイティブかつユニークな環境を作り出すために、南アフリカ在住の傑出したアーティストに当リゾートのための作品製作を依頼すると同時に、刺激的な作品を発掘して来ました。

南アフリカの文化的な風景を巧みに取り入れつつ、ワン&オンリー・ケープタウンの敷地内には、思わず足が止まる作品や最先端のキャンパスが並び、さらにリゾートの中2階にはコンテンポラリーアートギャラリー、「グッドマン・ギャラリー」の新店舗がオープンし、ギャラリーで展示される作品は、著名アーティストはもちろん、今後期待されるアーティストらによる写真、彫刻、油絵やプリントなどの作品も展示され、年に6回は入れ替えをする予定です。ワン&オンリー・ケープタウンは、多くのゲストに当ホテルでの体験を通じて、アートに浸り、また刺激を受けていただき、南アフリカのアーティストによる作品の素晴らしさを肌で感じ、お気に入りの作品を発見し、ご自身のコレクションにも加えていただきたいと願っています。

ワン&オンリー・ケープタウンのロビーに足を踏み入れると、ゲストの目をうばうのは画家であり彫刻家であり版画家でもあるデボラ・ベルによる3つの威風堂々としたブロンズの彫刻です。あたかもこの場所と伝統を見守る守護神のようにそびえる彫刻は、それぞれ「センチネル(監視員)」「スタッフ」「メモリー・オブ・ウッド(木の記憶)」と題され、不屈、不変、そして永遠の持続を象徴しており、ベルが抱く魔法や神話への想いを毎日の生活の中に示し表しています。

レセプションの左右を飾るのはノーマン・キャサリンのスクリーン「デイ」&「ナイト」です。アフリカの神話や派手な伝統をもとにイメージされたこのスクリーンがゲストをお迎えし、さらに奥にはウォルター・オルトマンによる印象的な2枚の絵画「ラーヴァ・スイート & 」と「イマーゴ」が飾られています。ブリーチ(漂白剤)とインクを使用したこの絵は、南アフリカの伝統的な工芸を使用しつつ、オルトマンの自然界への強迫的な探索を表現し、また文化的な表明も持ち合わせています。

ゴードン・ラムゼイのレストラン「メイズ」に飾られているのは、ベルニ・シアーによる、刺激的かつ感覚的な美しさをもつ作品「オファーリング(贈り物)」です。ケープタウンに生まれ育ったシアーは絵画と写真の境界線を拭き去った作風で知られ、この15mの長い作品は、食べ物やスパイスに関するアーティストの特徴的なモチーフをプリントした連続するパネルから構成されています。赤と黄土色のクレープ紙から作られた14枚のパネルは、水に溶けて混ざる鮮やかな色彩を表現しており、またシアー自身の持つケープ・マレイの何世代にもわたり受け継がれてきた儀式や伝統の特性が引き出されています。

ワン＆オンリー・ケープタウンの「ノブ」にも南アフリカを代表する彫刻・版画家のブレット・ムーレイによる特別な作品がディスプレイされています。ムーレイはサン人のアーティストの1人であるフレッシュ・アノングラと共同で作品を制作しました。5.5m x 2mのリノカットを木材に使用した版画作品は、ワイン色の背景の中で金色に光り、非常に興味深い東洋と南アフリカのアイコンの融合を実現させています。

ワン＆オンリー・スパでは、ベルニ・シアールの「シーキング・レフュージ(保護を求めて)」シリーズより写真「ホーム&アウェイ」を展示しています。このパワフルかつ詩的な一瞬を切り取った写真でシアールは、カナリア島の荒れた火山地帯にたどりついた、ある難民の旅路を表現しました。美しく、ドラマティックなこの写真では、主役である女性が過去を捨て、未来へとまなざしを向けている様子が写され、極めて美しいこのディスプレイ場所にふさわしい作品です。さらにワン＆オンリー・スパにはポール・エドモンズの扇形の彫刻「ファン(扇)」がディスプレイされています。この抽象的な作品は、4096本の絶縁ワイヤーの束を、実にきめ細かに編みこみ、銅でつなぎあわせてあります。この強迫的かつ瞑想的な制作作業は約6週間必要としました。

プレジデンシャル・スイートとインペリアル・スイートには、コンラッド・ボーツ、ウィレム・ボショフ、アンドリュー・パター、ガイ・ティリム、ジェレミー・ウェイファー、デビッド・ゴールドブラット、ピーター・クラーク、ウォルター・オルトマン、そしてポール・エドモンズ等の南アフリカを象徴するアーティストによるリゾートのためのオリジナル作品が飾られています。墮ちていくキリストの偶像からインスピレーションを受け、自らを「南アフリカのポストポップ ムーブメントの啓蒙家」と表すボーツが、プレジデンシャル・スイートのダイニング・エリアのガラスの背面に描いた円形のパネルは、人々の移り変わりです。この作品では、こっけいな伝統や、個人主義や人間主義に関する平凡な概念を嘲り笑いながら、少しのセンチメンタリズムを取り混ぜ、ピタースイートな側面も織り出しています。

今回、ウォルター・オルトマンが制作した細やかに編みこまれたワイヤーパネルの作品は、ベナン共和国の真鍮の盾からインスピレーションを受け、ワニの形にまとめられました。この作品もプレジデンシャル・スイートのダイニング・エリアに飾られています。プレジデンシャル・スイートの書斎に展示されるのは、南アフリカのベテラン写真家、デビッド・ゴールドブラットの海岸線を写した大きなカラー写真です。隣にはピーター・クラークによる「ザ・クイーン・オブ・シバ(シバの女王)」と「トウトウ」という散文詩のペーパーワークが並びます。クラークはコラージュの下に風変わりな詩を手書きでつづるスタイルの作品でケープタウンでは有名なアーティストです。

インペリアル・スイートへの入り口は、ポール・エドモンズによる宙吊りの彫刻「セイム・バット・ディフェレント(同じ、でも違う)！」が飾られています。2000年にエドモンズが制作したリノカット版画をベースにし、その延長線上のように作られたこの3次元の作品は、塩化ビニールの絶縁ワイヤーを材料にしています。その他にも、エントランスエリアにはピーター・クラークの「ファンファーレ」シリーズより、コラージュと散文詩のコラボレーション作品である「ポスト・ミストレス」と「マイルス・デイビス」、およびガイ・ティリムによる写真「ルブンバシ・シティ・ホール、コンゴ民主共和国、2007」と「マプト、モザンビーク、2007」が展示されています。ティリムの2枚の写真は、アフリカの近代主義建築に焦点をあてた最近のアヴェニュー・パトリック・ルムンバ シリーズの写真です。

インペリアル・スイートのサロンの中心となる作品は、南アフリカで最も有名な彫刻家であり概念アーティストであるウィレム・ボショフによる壁の彫刻です。「ウォーキング・スティック・ジグ(ステッキのジグダンス)」は濃淡色が特徴的なゼブラの木から作られた13本のステッキから作成され、木片をひらひらと舞う宝石のように表現し、それはまるで楽譜に踊る音符のようです。

中央のリビングスペースには、コンゴ・クバ族の衣装の複雑な幾何学パターンをモチーフとしたウォルター・オルトマン作の大きなワイヤー製のパネルがディスプレイされています。また、ジェレミー・ウェイファーは、南アフリカの風景、とくにズールー族とコサ族のしきたりや通過儀礼にインスピレーションを受け、大きな円形の彫刻「レッド・ディスク」と「オークル・ディスク」を樹脂に加え、粘土や灰を用いて作り上げました。

最後は、メインベッドルームにディスプレイされる、ケープ州の歴史を想像とユーモアたっぷりに見つめるアンドリュー・パターの「フローラ・カペンシス(ケープの花)」シリーズより花の写真プリント2枚です。パターは17世紀のオランダ風の美しい花の絵画を思わせながら、現在のケープタウンの地にかつて住んでいたコイコイ族をしのばせる材料を使用して、作品を造りあげています。

グッドマン・ギャラリーに関して

グッドマン・ギャラリーはソル・カーズナーのワン&オンリーと提携し、ホテル内に永続的なギャラリースペースを設け、優秀な新鋭アーティストの作品を展示します。ギャラリースペースを監督するのはグッドマン・ギャラリーのディレクター、リザ・エッセーズと、25年間にわたり南アフリカ・イジコ国立博物館にて現代美術のシニア・キュレーターを勤めていたエマ・ベッドフォード、さらにグッドマン・ギャラリーのシニア・キュレーターのストーム・ヤンセ・ヴァン・レンスバークです。現在グッドマン・ギャラリーでは、ウィリアム・ケントリッジ、デビッド・ゴールドブラット、ウィレム・ボショフ、ミハエル・ソボツキー、モシェクワ・ランガやノンツィケレオ・ヴェレコ等40人以上の一流コンテンポラリーアーティストをかかえています。

モシェクワ・ランガは2009年6月に高名なヴェネツィア・ビエンナーレに招待され、ウィリアム・ケントリッジは、マーク・ローゼンタール監督下の大きな展示を現在サンフランシスコ近代美術館にて5月31日まで開催されており、その後世界8ヶ所の美術館にて展示が決定しております。またケントリッジはメトロポリタン歌劇場にて2010年に上演予定のドミートリイ・ショスタコーヴィチの「鼻」(オリジナルはニコライ・ゴゴリの戯曲)のプロデュースも委任されています。

デビッド・ゴールドブラットの「インターセクションズ・インターセクテッド(交差する交差点)」は5月10日までスウェーデンのマルメ市立博物館にて展示されており、それ以降はニューヨークの新美術館にて鑑賞できる予定です。2008年度スタンダード銀行のヤング・アーティスト賞に選ばれたロロ・ヴェレコは、現在ツアー中の展示があり、2009年3月29日から5月10日までケープタウンの南アフリカ・イジコ国立博物館にてご覧いただけます。2009年4月2日から5月2日までグッドマン・ギャラリーにて展示中の「ネイション・ステート(国民国家)」は、南アフリカおよびその他の海外アーティストの作品を通し、南アフリカの国政選挙に関する最前衛のグローバルな展望を、市民権、愛国心、政治、プロパガンダ、安全等の観点から表現したコレクションです。

マイケル・スティーブンソンに関して

マイケル・スティーブンソンは1990年より南アフリカのアートに携わってきました。以前は19世紀、および20世紀の絵画、さらに東南アフリカのアートを扱っていましたが、2003年にケープタウンにマイケル・スティーブンソン・ギャラリーをスタートさせるとともに南アフリカの現代美術にシフトしていきました。2008年5月に5周年を迎えたギャラリーはケープタウン、ウッドストックにある、展示スペース600㎡以上の広大な土地に移動しました。ギャラリーでは南アフリカの一流のコンテンポラリーアーティストをはじめ、その他のアフリカ地区のアーティストや、国外に移住したアーティストの作品を手がけています。カタログ付きの個人展示やグループ展示が大変有名で、また毎年国際的なアートフェアにも参加しています。

マイケル・スティーブンソン・ギャラリーはケープタウン、ウッドストックに位置するブキャナン・ビルディング(160 Sir Lowry Road)にあり、月曜日～金曜日は午前9時～午後5時、土曜日は午前10時～午後1時まで開館しています。またギャラリーにはヨハネスブルグにパートナー会社(ブローディー / スティーブンソン : 373 ヤン・スマッツ通り、クレッグホール)があります。

このプレス・リリースに関するお問い合わせ、資料送付のご希望は、
ワン&オンリー・リゾーツ日本地区PR代理店、ケントス・ネットワークまでご連絡ください。
: 03-3403-5328 / e-mail : info@kentosnetwork.co.jp
<http://www.kentosnetwork.co.jp/>